

令和4年度 学校評価報告書（実施結果）

視 点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取 組 の 内 容		校 内 評 価		学校関係者評価 (2月24日実施)	総合評価(3月29日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	自立と社会参加をめざし、ライフステージを見据えたキャリア教育の充実を図るため、系統的、発展的な教育課程を編成する。	①個別教育計画を効果的に運用する。  ②授業力、専門性向上に向けた取組みを、より活性化し、効果的に活用する。	①個別教育計画を用いて、本人、保護者、関係機関との合意形成、情報の引継ぎを円滑に進め、個別教育計画を有効に活用する。  ②「校内人材バンク」「サポートシステム」「たかつ教育内容系統表」「単元(題材)計画一覧表」を活用し、授業力向上を図る。より活用しやすいシステムを構築する。	①個別教育計画を有効に活用して、保護者等との合意形成を図れたか。  ②さまざまな仕組みを活用して、実際の指導に活かすことができたか。	①個別教育計画を用いて、担任、保護者間での情報共有ができた。  ②研究の成果物をWEB上で閲覧・ダウンロードするサイト作成を行い、公開する予定である。サポートシステムと人材バンク、Teams 掲示板を連携させ、学習支援方法に関する情報を共有する取組みができた。	①「たかつの教育内容系統表」とリンクさせた個別教育計画を試行し、来年度からの運用を計画している。  ②取組の定着のため係からの積極的なアナウンスは継続して必要である。認知度を高めるための工夫として掲示板の表示位置等は検討していく。	【保護者評価】 3.48 前年度比 0.02↑  【学校評価部会】 ・研究の成果物をWEB上で公開できることは良い。  ・「たかつの教育内容系統表」はよくできている。授業力向上に向けて活用してほしい。  ・指導と評価を一体化できると良い。	①個別教育計画を用いて、担任、保護者間での情報共有ができた。来年度に向けた新書式の試行を行った。  ②研究の成果物をホームページで公開することができた。WEB版「たかつ知恵袋」でさまざまな支援方法の共有ができた。より活用できる方法を検討したい。	①「たかつの教育内容系統表」とリンクさせた個別教育計画を運用し、より保護者、教員間で共有、活用していく。  ②成果物を教員、保護者で共有し、より積極的な活用を促す。
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	児童・生徒一人ひとりの個性を尊重し、教育的ニーズに応じた指導・支援を全職員で組織的に実践する。	①児童生徒のニーズに応じた教材の開発と活用を推進する。  ②児童生徒一人ひとりのニーズと課題を踏まえ、多職種連携のしくみを活用し、さらに充実させる。	①教材室を積極的に活用できる環境整備を行う。教材を職員内で共有する仕組みを構築する。  ②予防的ケース会を活用して、児童生徒のニーズと課題把握を組織的に行う。また学部に応じた相談支援に関する学習会とおして、支援方法の充実を図る。	①教材室の環境整備が進み、教材を共有、活用する仕組みができたか。  ②予防的ケース会や学習会を通して、組織的に支援する体制ができたか。	①定期的な教材室の点検・整理を行い、空間活用を進めた。iPadや校務パソコン内の教材データ整理にも取り組んだ。  ②専門職を講師とした学習会を行い、その後、専門職も交えた組織的支援につながるケースもあった。	①校内に学部ごと分散されている教材室の在り方は再度検討が必要である。データ整理は継続して取り組む。  ②予防的ケース会で組織的に共有する児童生徒のニーズや課題内容の解釈について、学校内で統一していくと良い。	【保護者評価】 3.42 前年度比 0.05↓  【学校評価部会】 ・日頃行うケース会以外に、予防的に組織的支援が行える体制づくりを進めてほしい。	①定期的な教材室や倉庫の点検・整理を行い、整備に努めた。教材やデータの共有をより進めた。  ②専門職を講師とした学習会を行い、その後、専門職も交えた組織的支援につながるケースもあり、スムーズな問題解決、未然防止につなげることができた。	①教材室や倉庫、物置の点検、整理を継続して行い、収納物のリスト化、見える化を進める。教材データの共有の仕組みを構築する。  ②予防的ケース会における児童生徒のニーズの把握について学校内で統一し、予防的ケース会や学習会の積極的な活用を進める。

3	進路指導・支援	<p>自立と社会参加する上で必要な力を育成するため、本人のニーズや適性に応じた「キャリア教育の推進」のための進路指導・支援を実践する。</p>	<p>①卒業後の生活を見据え系統性を持ったキャリア教育推進のための指導内容を構築する。</p> <p>②小中高それぞれの段階において、保護者にわかりやすい情報を提供する。</p>	<p>①発達段階に応じて児童生徒が興味・関心をもつ指導・実践を行う。個々の生徒の持つ力をアセスメントできる作業内容や評価の方法を検討する。</p> <p>②学部や学年ごとに進路学習会や懇談会で段階に応じた情報提供を行う。多様な形態での事業所見学を実施し、保護者のニーズに合わせた情報提供を充実させる。</p>	<p>①児童生徒の実態に即したキャリア教育が展開できたか。</p> <p>②懇談会、見学会等で進路に関する具体的な情報提供ができたか。</p>	<p>①児童生徒の実態に応じたアセスメントを実施し、専門職も交え、客観的評価を行い、個々の実態に応じた教育を進めた。</p> <p>②各学部、学年に応じた進路説明会を行った。PTA 主催の進路座談会では、進路に関する保護者のニーズに応じてアドバイザーを紹介するなどサポートし、書面開催で実施した。</p>	<p>①引き続きキャリア教育について教員の理解をより深めるとともに、児童生徒のライフステージを見据えた学部横断的な連続したキャリア教育の推進方法について検討を進める。</p> <p>②進路に関するより多くの保護者のニーズを効率的・効果的に聞き取り、タイムリーな情報を提供する。</p>	<p>【保護者評価】 3.41 前年度比 0.08↓</p> <p>【学校評価部会】 ・清掃技能検定の参加については、生徒、教員にとっても有用な取組みなので、継続してほしい。</p>	<p>①児童生徒の実態に応じたアセスメントを実施し、専門職も交え、客観的評価を行い、個々の実態に応じた教育を進めた。ライフステージを見据えた学部横断的な連続したキャリア教育の推進方法について検討を進めたい。</p> <p>②PTAとの連携により、進路に関する情報提供を行うことができた。書面開催、オンライン等社会情勢に応じた情報発信を行った。今後も保護者のニーズを把握した情報発信を行っていく。</p>	<p>①客観的アセスメントを用いた実態把握と評価を行うとともに、発達段階に応じたキャリア教育の内容を検討する。</p> <p>②PTAとの連携を丁寧に行きニーズを把握する。保護者会や懇談会を活用して、ライフステージに応じた情報発信を行う。</p>
4	地域等との協働	<p>共生社会の実現をめざし、地域の学校への支援に組織的に取り組むとともに、コミュニケーションを活用した地域と連携した学校づくりを行う。</p>	<p>①新しい生活様式を見据えた地域連携の取組を行う。</p> <p>②共生社会の実現に向けて、地域の学校等に向けた障害理解啓発のための取組を充実させる。</p>	<p>①繋がりのある団体等との活動を計画・実施し、地域との連携を強化する。</p> <p>②HP や掲示等を活用し、パラスポーツ、パラアートを地域に発信する。また児童生徒の活動を積極的に地域にPRする。公開研修会等を実施し、地域とともに専門性の向上を図る。</p>	<p>①施設開放団体、社協、地域商店街等との協働ができたか。</p> <p>②児童生徒の活動を地域に発信し、PR できたか。公開研修会等の実施により、専門性の向上を図れたか。</p>	<p>①更に多くの地域商店街等を加えたラジオ体操リレーやスクワットチャレンジ等をプログラムとした「秋の遊び場」をZoom 配信で開催した。</p> <p>②県内企業の協力により、児童生徒の作品展示を学校近隣店舗で実施した。夏期公開研修会をZoom 配信で実施した。外部参加者 57 名。</p>	<p>①社会状況に応じた対面型開催の再開について検討。地域への発信を工夫して更に参加者を増やす。</p> <p>②地域への更なる発信方法について検討するとともに、地域へのPR や発信と教育活動を結びつける工夫を講じる。</p>	<p>【保護者評価】 3.39 前年度比 0.13↑</p> <p>【学校評価部会】 ・地域の作業活動に出ていることはとても大切なことなので良い。さらに広がってほしい。</p>	<p>①繋がりのある団体等との活動を計画・実施し、地域との連携を強化することができた。「秋の遊び場」の開催方法や周知を工夫していきたい。</p> <p>②児童生徒の活動を地域に発信し、PR することができた。地域との協働による教育活動の展開をさらに進めたい。</p>	<p>①地域との日常的な連携について検討を行い、イベントの開催や周知方法の工夫を行う。</p> <p>②地域との連携による児童生徒の教育活動の充実を図り、学校の強みとしていく。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>・児童生徒が安心して過ごせる教育環境の整備と危機管理体制を構築する。</p> <p>・子どもたちと向き合う時間を確保するために、効果的な教育活動を行い、教員の働き方改革を推進する。</p>	<p>①様々な災害を想定し、実践的、体験的な防災・安全対策を一層進める。</p> <p>②教員が子どもと向き合う時間を確保できるよう業務精選、効率化を図る。</p>	<p>①社会情勢に合わせた多様な避難訓練を実施する。地域との協働による防災対策を構築し、実践する。</p> <p>②Teams の積極的な運用を進め、業務の精選と効率化を行い、勤務時間の短縮につなげる。新しい生活様式に合わせた教育内容の精選と充実を行い、変化に対応した実践を行う。</p>	<p>①地域との協働による防災対策をすすめることができたか。</p> <p>②業務の精選と効率化を図ることができたか。変化に対応した実践を行うことができたか。</p>	<p>①調理員と協働での防災訓練と給食での防災食喫食を同時に実施した。企業、地域と協働した「防災のひろば」を実施した。参加者 78 名地域参加者 17 名。</p> <p>②Teams での会議やチャットの情報共有が定着し、各教員の働く時間に合わせて業務を進めることができた。</p>	<p>①より実践的な防災訓練の形を検討する。地域との協働による防災訓練については内容や実施方法の充実と精選を検討する。</p> <p>②機器や設備の充実を図り、会議の効率化を図る。データの整理による効率化を進める。</p>	<p>【保護者評価】 3.32 前年度比 0.17↓</p> <p>【学校評価部会】 ・コロナでできなかったことを再開するのは大変だと思うが、以前とは違う形でもやっていけると良い。</p> <p>・開かれた学校と防犯という相反する部分があるが、両立できるような考えてほしい。</p>	<p>①企業、地域と協働した「防災のひろば」を実施し、防災対策をすすめることができた。内容や実施方法は検討を重ねていく。防犯体制については保護者からの意見を多くいただいた。</p> <p>② Teams での会議やチャットの情報共有が定着し、各教員の働く時間に合わせて業務を進めることができた。データの整理をすすめ、共有、効率化を図っていく必要がある。</p>	<p>①地域との協働による日常的な防災に係る取組を検討する。防犯対策の強化を図っていく。</p> <p>②業務の効率化に向けたデータの整理、共有の仕組みを構築する。</p>